



カウンスル No.8

Newsletter

Vol.34 No.2 May 2024

カウンスル No.8 第 34 期会長

烏谷まゆみ



カウンスルNo.8 第2回会合は2024年4月6日、東京ウィメンズプラザ視聴覚室でゲスト5名、会員34名の出席で開催されました。東京の桜もNo.8の会合を祝福するかのよう満開で迎えてくれました。

事務会議は滞りなく進行され、第35期役員選挙では各役職候補者は過半数の承認を得て選出されました。第35期会長根岸千代さんの会長テーマは【冷眼熱心】です。会員数の減少、高齢化が進む中、気持ちを1%でも前向きにして冷静に考え、熱く行動しカウンスルNo.8を継続させようと会員に協力を呼びかけました。第35期は全クラブから役員が選出され、しかも、ベテラン揃いです。会員の皆様、安心してください。盤石な役員体制のもとにカウンスルは運営されていくことと確信します。そうは言っても、会員の皆様の協力が必要不可欠ですから、お声が掛かったら、「それ、いいね」「すてき」「しっかりやります」「さすがお目が高い、私を選んでくれて」などと、Sのつく言葉で良いお返事をお願いします。

スピーチコンテストは、彩玉クラブの嶋田しげ子さんが優勝されました。おめでとうございます。J大会でもカウンスルNo.8代表として頑張ってください。ここまで準備を整えてくださいましたスピーチコンテスト委員会の皆様、プログラムリーダーに感謝申し上げます。そして、準備委員会の皆様、複数のお役を抱えながらの任務遂行に頭が下がります。誠に有難うございました。

No.8は花巻クラブの解散等で、4/10現在会員47名です。少人数ではお役を重複してやらなければならない人が増えることが考えられます。それでも、人数が少ないということは意思疎通が図りやすくなりますから、コミュニケーションを取りながらお互い高め合い勉強しつつ楽しんでいきましょう。

カウンスルNo.8 第 34 期テーマ：まさか！を楽しもう

ITC-J 第 42 期 テーマ：守る 変える そして進歩

カウンスル No.8 第 34 期第 2 回会合報告



桜の満開の下 2024 年 4 月 6 日東京ウィメンズプラザ視聴覚室にて、第 2 回会合は定刻通り開催されました。烏谷会長による ITC-J 宣誓、挨拶、ゲスト紹介の後ビジネスが開始され、点呼から始まりました。全派遣員出席で、議長により定足数が確認され、前回議事録の承認、会計報告・請求と続きました。



各役員、各委員会委員長が分担の活動を報告し、指名委員会から次期(第 35 期)役員候補者が報告されました。特別審議事項として次期役員選挙が口頭採決で行われ、賛成多数により以下の会員が選出されました。会長：根岸千代(東葛)、第一副会長：斉木ゆかり(横浜)、第二副会長：清水享子(葦崎)、書記：八尾和子(東京)、会計：江利川富江(彩玉)。根岸千代次期会長は、テーマを《冷眼熱心》と発表し、その熱い想いに会員から大きな拍手が起こりました。スムーズな議事進行でビジネスは終了し、休憩も十分にとれプログラムに入りました。



プログラムは ITC-J 最大のイベントである【スピーチコンテスト】です。斉木プログラムリーダーの進行はなめらかで、出場者 5 名のスピーチも良い雰囲気の中、真剣に聞くことができました。審査員の投票により 1 位：嶋田しげ子(彩玉)、2 位：山口久美子(葦崎)、3 位：末廣佳香(東京)と発表され表彰されました。出席者数 39 名(会員 34 名、ゲスト 5 名)と報告があり、会長から会員の協力に謝辞が述べられ、15 時 47 分終了しました。その後スピーチコンテスト委員長司会の下、懇談会が開かれ審査員・審査員代理・出場者・会員が参加し、自由に意見交換ができスピーチに対する理解を深めることができました。会合が充実感を持って終了できました、とご報告いたします。 書記 田中初子



スピーチコンテスト PL 報告

プログラムリーダー 斉木ゆかり（横浜）



出場者5名のうち2名は入会1年目、そして見事優勝をなされた嶋田しげ子さんも ITC-J 歴1年余りで、新入会員たちの熱意を感じました。カウンスルプログラムリーダー（以下 PL と略す）を担当したのは初めてでしたが、自分がコンテストに参加した時、にこやかに接して下さった当時の PL を思い出し、参考にしたいと思いました。とは言っても、なかなか難しかったです。そこで、次回 PL をする人のために気づいたことをここにまとめます。

（1）「紹介文」の情報

スピーチが終わった後、PL は審査員とスピーカーの紹介をします。目安は1人につき2分です。今回、ITC-J 歴、ITC-J 以外の活動、趣味、そして質問への回答の4項目を事前に文書でお聞きしました。ところが情報全てをお話しすると2分を超過するとわかりました。せっかくお答えいただいた情報なのに、省略するのは大変心苦しかったです。そこで、今回はスピーカーの一覧表に出場者と審査員のプロフィールを書き込み、PL は独自に行った質問の回答のみ口頭で披露してはどうかと思いました。

（2）審査員と出場者への質問

今回の質問は「あなたの人生を変えた（かもしれない）一冊の本は何ですか」にしました。その人の人柄が反映されるのではないかと思ったからです。案の定、興味深い本とその経緯が説明され、その人を知る契機となりました。

（3）準備したことを捨てる勇気

コンテスト進行の過程で「ここでコメントを加えたい」、「ここでは準備したことは違うコメントをしたい」という場面がありました。その際、準備したのは捨てるでもその場の雰囲気合うコメントに変える勇気が必要だと思いました。今回は冒頭で会長が「開花が遅い桜の話」をされたので、急遽その話にまつわる話ではじめ、また締めくくりにしました。

以上 PL をして気づいた3点、次回の PL さんの参考になれば幸いです。



スピーチコンテスト出場者一覧表（出場順）		
名前	論題	題目
山之内美知子	希望	最後の QOL
末廣佳香	根（根幹）	ハインリッヒの法則
田村純子	英語教育	異文化について
嶋田しげ子	シナジー効果	リハビリテーション！凄い
山口久美子	とっておき	おいじまん

スピーチコンテストを終えて 出場者（出場順）



山之内美知子（東葛）

初めての出場で1番バッターのくじと初めてづくしでしたが、こんな公の場で貴重な体験をさせて頂き皆様に感謝一杯です。

コンテスト委員会の方々の準備等、任務・役割、またプログラム展開からITC-Jの歴史が感じられました。コンテスト形式のスピーチ、会員の皆様全員の目標の一つでもあるのでしょうか。

私のスピーチは原稿依存で、聴衆の方々の表情も分からない状態でした。クラブで皆さんのご指導ご助言を一杯頂きながら、当日までの時間もありませんが努力不足で申し訳なく思います。

個人的要望ですが、出場者5名、一人一人、評価項目に沿った、評価発表を簡単でもよいので指摘して頂き、共有があり、聴衆の皆さんが次回は私も出てみたいという雰囲気が欲しかったです。プロフィール紹介は発表の前に簡単に言って頂ければ、スピーチ内容理解もあるのではと思いました。不安定な世界情勢、早い変化の移り変わりの現代、コミュニケーションを必要とする多様な意見の発表の場、これからも貴重な学びの場に期待いたします。



末廣佳香（東京）

「次回スピーチコンテストのテーマは“時事問題”でいこう」と決めていた私は話したい事、伝えたい事、メッセージを存分にスピーチに乗せて届けることができ満足でした。それ以上に感激したのは東京クラブメンバーがスピーチに集中できる環境を整え配慮してくれたことでした。順位発表後は他クラブの方からも温かい激励の言葉を頂き、感謝感謝の一日となりました。

自クラブは伝統を守り、私は順を踏んでカウンスルへと出場しました。その間、多くの方から頂いた秀逸な評価やアドバイスはITC-Jのスピーチと真剣に向き合う貴重な時間を与えてくれました。ただ心残りの事はカウンスルのスピーチコンテストではITC-Jの評価が聞けなかった…とても残念です。

優勝の彩玉クラブ嶋田しげ子さんには祝辞の言葉とともに大会の大舞台上でNo.8に相応しい品格あるスピーチを披露していただけることを期待します。はなむけの言葉とともにご健闘をお祈りしています。



田村純子（横浜）

私は、スピーチが苦手ですが、人がいなくて私が出場することになりました。今までになく練習しましたが、皆様に視線を送ることができなくて間違えないように原稿にしがみついてしまいました。前の日も眠れなくて、緊張がありました。

大勢の方の前で話す機会は、なかなかありません。どれほどの成長があったかわかりませんが、終わった後の気持ちは、ただ、ホットしました。

終わった後のコーヒーは美味しかったです。審査員の方に質問をする元気は残っていませんでした。



嶋田しげ子（彩玉）

「まさかを楽しむ」これは今期のカウンスル会長のテーマですが、私は今期2回も「まさか」を体験しました。最初は、自転車で転倒骨折し入院したこと、2回目はカウンスルNo.8のスピーチコンテストで1位になったこと。まさか！と驚きながらもうれし涙がこみ上げました。スピーチ大会への参加は初経験でしたが、その「まさか」が起こり、カウンスルNo.8への出場となり驚きました。

スピーチコンテストでは、私は4番目の出場でした。1番目、2番目の方のスピーチは落ち着いて聞くことができましたが、3番目の方のスピーチが始まった頃から、胸がドキドキして体が震えてきて、深呼吸をしたり伸びをしたり、手のひらに人を書いて飲んでみたり、緊張を抑えるのに必死でした。でも私の名前を呼ばれた時は妙に落ち着いて壇上に上がることが出来ました。審査員の皆様のお顔もお仲間のお顔も解りました。しかし、話し始めたら夢中で話し終わってしまい、練習の時より1分も早く終わっていました。やはり上がっていたのですね。

審査員の皆様からは貴重なご意見を頂きまして、今後活かしていきたいと思っています。経験の場を与えて下さりありがとうございました。年次大会での発表では精一杯の努力を尽くしますので宜しくお願いいたします。



山口久美子（萠崎）

カウンスルのスピーチコンテストに出場したのは、13年振りでした。スピーチ原稿の作り方を忘れてしまいそうになっていました。論題「とっておき」をいかに自分の中で消化して、みんなにメッセージとともに伝えることができるかと毎日毎日ずっと練っていました。「何を一番伝えたいの」と自問自答を繰り返していました。

周りの方々と話をするたびに、医者通いと身体の不調を聞くことが多くなってきました。そんなときに、話を聞く側の方は、「それでそれで、その病気の時は、身体はその後どうなっていくの」と熱心に聞いています。その時に備えて、心の準備をしておくそうです。

私は、今回の「おいじまん」の中で、「誰しも、明日自分の身に起きることは予測がつかないから、その時に備えて経験者から話を聞いておこう。経験者は胸を張って、体験談を語ろう。それが自分自身のとっておきのおいじまんであるから」という肝心なところを飛ばしてしまいました。落ち着いてスピーチをしていたつもりでも、肝心なメッセージを飛ばしてしまっても気が付かなくなってしまった私は、まさしく「おいじまん」ではなく「ボケ自慢」だと思いました。

久しぶりに緊張や高揚感を体験しました。関係の皆様には大変お世話になりました。

~~~~~  
<編集後記>

\*お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

\*第2回会合写真は、他にNo.8ホームページ「アルバム」にも掲載いたします。どうぞご覧ください。

[council8.itcjr.jp](http://council8.itcjr.jp)

ウェブサイト・会報委員会 山内昌子 八尾和子